

常石造船(株)の事業基盤強化計画(抜粋)

企業概要

- 1917年創業。ばら積み貨物船を主軸に建造。特に、同社が2002年に開発した代表船型「カムサマックス(登録商標)」は、燃費、汎用性、積載性能が評価され、300隻を超える竣工実績を有する。
- 船舶修繕では幅広い船種に対応できる“シップ・ドクター”として、年間150隻を超える豊富な修繕実績を有する。
- 2021年10月に三井E&S造船と資本提携を行い、設計開発力やコスト競争力の強化等に協力して取り組んでいる。

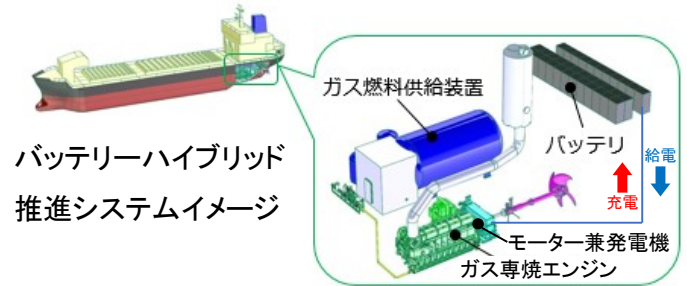


計画の概要

- ①LNG、アンモニア、水素等の次世代燃料対応船、②バッテリーを用いたハイブリッド推進システム対応船、③国際燃費規制値を大幅に上回る省エネ船、といった環境対応船舶の開発及び建造を行い、船舶分野における気候変動対策に貢献する。
- (株)神田造船所の修繕を承継する新会社(神田ドック株)をグループ化。両社の修繕ドックの相互融通、人員交流等を通じてシナジーを発揮することにより、修繕サービスを強化する。
- 併せて、DX化の推進により、新造・修繕両面における生産性や顧客サービスのさらなる向上を図る。

<計画実施期間> 2022年4月～2024年12月

<実施場所> 常石造船(株) 常石工場 (広島県福山市)
神田ドック(株) 川尻工場・若葉工場(広島県呉市)



バッテリーハイブリッド
推進システムイメージ



LNG燃料ばら積み貨物船「KAMSARMAX GF」イメージ